

## とうきょうすくわくプログラム活動報告書

園名	久米川保育園
日時	令和7年12月10日

### 1. 活動テーマ

<テーマ>

自然・・・1歳児「秋の自然に触れる～落ち葉のプール～」

<テーマ設定理由>

秋から継続的に近隣の公園に出かける経験を積み重ねて、その場での探究活動を行ってきました。近隣の公園や霊園、園庭から見える樹々が美しく紅葉し、歩いて散策する中でより全身で秋を感じることができます。そこで今回は思い切り落ち葉の中に身を投げ全身で秋を感じ、さまざまな自然の中で探究活動をすることにしました。

### 2. 活動スケジュール

自然に触れる園外活動

- |               |                |
|---------------|----------------|
| ・9月8日 近隣の公園   | ・10月24日 団地内の公園 |
| ・9月22日 団地内の公園 | ・11月6日 近隣の霊園   |
| ・9月25日 団地内の公園 | ・11月13日 団地の原っぱ |
| ・9月26日 団地内の公園 | ・12月2日 団地の原っぱ  |

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・散歩用リュック
- ・無線機
- ・動画記録用iphone
- ・子どもが見つけたどんぐりや落ち葉を持ち帰るためのビニール袋。

### 4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・保育士や友達と一緒に手をつないで近隣の霊園に出掛ける。
- ・散歩に出掛ける時の簡単なルールも分かるようになり、守ろうとする姿も見られるようになる。
- ・霊園の中には落ち葉も多くあり、みんなで触れたり、座ってみたり、投げてみたりと好きな遊び方を見つけながら、葉っぱだらけになるほどに満足するまで楽しんでいた。
- ・自然に思い切り触れる中で、秋の自然を感じる体験ができた。触れることで生まれる子どもの発見や面白さなどの気づきが1歳児であっても見受けることができた。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り>

- ・落ち葉に触れた手触り、たくさん持ちあげた時の重さや柔らかさ、落ち葉に触ったり踏みしめたりすることで聞こえてくる音、土や落ち葉の臭いなど全身の感覚を使って遊びを楽しんでいる。
- ・落ち葉の山の中で、近い距離に集まって座り、それぞれの手元を見ながら同じように葉を握ったり、つまんだりして、友だちの動きを真似しながら遊ぶ。
- ・落ち葉の山の中に腰まで埋もれてじっくり座る子、少し離れたところから山に近づく子、立ち歩きながら葉を集めてくる子など、自分にとって心地よい遊び方をしている。
- ・最初は山の端に座っていた子が、次第に中心部へ体を預けていったり、寝転がる姿があり、周囲の子や雰囲気から安心感を得ながら、遊びへ参加する姿が見られる。
- ・立っている子が両手いっぱい落ち葉を持ち、それを誰かに向けて差し出そうとしたり、かけようとしたりする。「どうぞ」の様なやりとりにつながっている。
- ・葉をかけられた子が笑ったり、身をよじったりする反応を見て、周囲の子どもたちも同じ関わりをし始める様子から、ひとりの行動がきっかけとなって、同じ遊びを楽しむ姿が自然に生まれている。
- ・皆が同じ落ち葉の山という場を共有しながらも、それぞれが自分の葉っぱを見たり、握ったりしており、並行遊びの姿が見られる。
- ・寝転んでいる子どもに別の子が葉っぱをかけてあげる場面から、「もっとふかふかにしよう」「かけたら喜ぶかな？」という気持ちが見られ、かけることも楽しくて自分から関わろうとする。
- その一方で、ふと顔を上げて隣の子の様子を確認したり、友だちの持つ葉に手を伸ばしたりするなど、並行遊びから互いを意識した遊びへと移行していく様子がある。
- ・保育士と一緒にいる安心感のもとで、子どもたちは落ち葉の山に入っていく姿が見られる。



### 1. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・子ども達は日常的に落ち葉に触れて遊んでいます。散歩の折にこのようにたくさんの落ち葉に囲まれたり埋もれたりして遊ぶ機会は経験がなく、継続して自然に触れて遊んでいる中でこのような経験ができたことはよかったです。
- ・ふかふかの山に腰まで埋もれたり、寝転がったりして、落ち葉の柔らかさやチクチクする部分の違いを体で感じています。
- ・つかむ・握る・ばらまくなどの動きから、乾いた葉の軽さを感じていると考えられます。
- ・座って手元で葉をこすり合わせたり、両手いっぱい持ってバサッと落としたりして、「カサカサ」「バサッ」といった音の違いを楽しんでいる姿が見られます。
- ・友だちの体に葉をかける、葉の山に座るなど、大胆な動きをしたくなるような素材だと思います。危なくないように保育士が適切に関わることの大切さも感じました。
- ・土や落ち葉が積もった場所にじっくり座り込むことで、湿った土のにおい・日向のあたたかい空気・枯れ葉特有のにおいなど、室内とは違う秋のにおいを感じていると考えられます。
- ・季節の変化への気づきはまだまだ難しいとは思いますが、季節感のある体験を通して子どもは今の季節の自然を楽しんでいるのだと思います。この経験を年齢ごとに繰り返していくことで、秋という季節や落ち葉の性質について探究が深められ、感受性が育つ経験になると思います。
- ・寝転んでいる友だちの上に葉をかける、山の中に一緒に入るなど、一緒に遊ぶことを楽しんでいる姿が見られます。
- ・足で踏みしめる、座る、寝転ぶなど、姿勢を変えながら繰り返し関わることで、「歩くと沈む」「座ると包まれる」といった身体感覚と結びついた理解が深まるように感じます。
- ・保育士がそばで見守る安心感の中で、怖さよりも「面白そう」「もっとやってみよう」という気持ちが前に出て、主体的に自然物にかかわる豊かな探索活動になっていると思います。